

平成 29 年度事業報告

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

公益社団法人日本馬術連盟（JEF）は、平成 29 年 3 月 3 日の平成 28 度第 7 回定例理事会において承認された平成 29 年度の事業計画および収支予算に基づき、以下の事業を実施した。なお、一部については、期中に補正を行った。

平成 29 年度の特記事項として、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（東京 2020 大会）に向けて、JRA 特別振興資金事業による馬術競技強化対策を開始した。強化対策の内容は、①競技種目ごとに JEF 海外トレーニング拠点を設置するとともに、海外コーチングチームを配置 ②優良競技馬の貸付による競技活動支援を目的に優良競技馬を購入 ③優秀選手への海外活動費補助 ④育成選手の選抜および JEF トレーニング拠点への配置 等である。さらにパラ馬術への支援や、JRA 馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催支援事業を実施した。

国際競技会における特に優秀な成績として、大岩義明選手が、バドミントン・ホーストライアルに 8 位入賞し、さらに日本選手として初めて CCI 3 ☆競技に優勝した。また、ポーリー・カレン選手は、日本選手として初めてアウトドアの CSI 5 ☆競技に優勝した。そのため 2 選手を特別表彰とした。

馬術の振興普及策として、馬術ファンサイトの開設、馬術アンバサダーの任命に加えて、馬術と競馬のコラボイベントを開催した。メディア等の反響は好評であり、馬術競技の魅力を訴求できた。

各事業については、以下のとおり；

1. 馬術の普及・振興

(1) 馬術に関する情報システムの運営

- ① ウェブサイトを運営し、競技会や規程などの情報を迅速に広報した。
- ② 競技会の実施要項や成績速報、講習会の案内などを迅速に掲載するとともに、『馬術情報』とウェブサイトをリンクして広報の充実を図った。
- ③ 競技会規程の改定に伴い、JEF 情報システムを一部改良した。
- ④ 新たに、馬術ファンサイト「A to Zinba」を開設した。

(2) 機関誌発行

- ① 情報を的確に伝達し、馬術の振興および各種記録の保存に資するため、月刊機関誌『馬術情報』を刊行した。
- ② 『馬術情報』を日馬連会員、関係団体、マスコミ各社に配布するとともに、購読希望者に対し頒布した。

(3) 馬術関係資料の作成・配布

- ① 各種規程集および日馬連で扱う馬術競技の紹介・ルール解説等の資料を作成し、頒布した。

- ② マスメディアに対し情報を積極的に提供した。特に、朝日新聞、神戸新聞社、山梨放送、山梨日日新聞、静岡新聞、日本放送協会、静岡放送には大会の後援を依頼し、広報を充実させた。また、NHK の全日本障害馬術大会パート I 放映、グリーンチャンネルの全日本総合馬術大会放映等に協力した。

(4) マーケティング活動

- ① 4 社が最上位スポンサーであるオフィシャルパートナーに、2 社がオフィシャルメーカーに、1 社がオフィシャルサプライヤーになった。
- ② パートナーシッププログラムを適切に実施した。
- ③ 馬術スペシャルアンバサダーおよび馬術アンバサダーライダーを任命し、幅広い層に対して馬術の認知度・魅力を広めた。
- ④ 「馬術×競馬」語ろうナイト in 大手町 を開催し多くの来場者に馬術競技の魅力を訴求した。

(5) 動画配信

インターネットを活用し、競技会のライブ配信を 17 回（他団体主催 7 回を含む）実施した。

(6) 各種表彰

- ① 永年に亘り馬術界に功績のあった人馬 11 名（功労者 4 名、地域功労者 7 名）5 頭を表彰した。また、国内外競技会において、優秀な成績を収めた人馬 4 名 8 頭を表彰した。
- ② 特別表彰として、国際馬術大会において特に優秀な成績を挙げた 2 名を表彰した。
- ③ 競技馬の資質向上のため、優秀な成績を収めた乗馬に対して飼育奨励金を交付した。
- ④ 競技馬の資源確保および調教技術向上を図るため、優秀な成績を収めた内国産馬（元競走馬を含む）に対して飼育奨励金を交付した。
- ⑤ 優秀な成績を収めた内国産乗用馬の生産者に対して感謝状を贈呈した。

(7) NF 活動の推進 (National Federation: 国内を統括するスポーツ団体)

- ① (公財) 日本オリンピック委員会および (公財) 日本体育協会の会議等に積極的に参加した。
- ② FEI およびアジア馬術連盟の活動に参画し、国際情報を迅速に収集し、日本馬術界の国際的地位向上に努めた。FEI と緊密に連携し、国際的に活動する選手を支援した。また、スポーツ庁 IF 役員獲得支援事業を活用して、各種会議に JEF 役職員等を派遣した。アジア馬術連盟の副会長ポストを獲得した。

(8) 馬術基盤の維持拡大

- ① 組成団体に対しその加盟する団体が所有する馬匹について、飼育費助成および優秀乗馬助成を行った。また、都道府県馬術連盟および組成団体等の事業費・事務費の助成を行った。
- ② 馬事関連団体と連携し、馬術の普及・振興に努めた。

- ③ 内国産馬の振興を図るため、内国産馬限定競技を主催競技会に組み入れるなど、内国産馬の活用を促進した。
- ④ 東京 2020 大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業として、6 主催者 13 競技会について支援を行った。また、これら競技会への参加促進のため、関東学生馬術協会加盟馬術部の活動支援を行った。(JRA 特別振興資金事業)

2. 会員と乗馬の登録

- ① 選手や指導者あるいは団体の活動をサポートするため、登録会員(6,907:個人 6,259、県馬連所属団体 385、組成団体所属団体 263)、贊助会員 1 および乗馬(3,888)の登録を行った。
- ② FEI 公認競技会に参加する人馬および競技役員の FEI 登録事務を実施した。
- ③ 「JEF 情報システム」を活用し、登録における会員サービスの向上および事務の合理化を図った。

3. 競技会規程の制定、各種資格の認定

(1) 競技会規程の制定・整備

JEF の各種規程の制定および改廃を行った。また、FEI 各種規程の制定・改廃に対応して、国内規程を改正し、FEI 規程の国内適用を図った。

(2) 競技役員資格

- ① 審判員等技術役員資格者の認定および資格保持者の技術向上のため講習会を実施(9回)するとともに、都道府県等が開催する講習会を公認(11回)した。
- ② 障害馬術競技で使用するコースの設計および設営を担うスペシャリストとしてのコースデザイナー講習会を開催(1回)し資格を認定した。
- ③ 講習会の内容の統一のため、講師の研修会を開催(1回)した。
- ④ 国際競技役員養成のための FEI 公認講習会を開催(1回)した。

(3) 指導者資格

- ① 日本体育協会公認スポーツ指導者
(公財)日本体育協会が制定する公認スポーツ指導者制度に基づく統一カリキュラムによる日体協公認馬術コーチ養成専門科目講習会を開催し、馬術に特化した馬術コーチ・指導員を増員した。
- ② 日本馬術連盟認定指導者
馬術指導者の資格認定・更新および専門知識習得と資質向上のため、日馬連独自のカリキュラムによる JEF 認定指導員養成講習会を開催し、指導者(30名)を増員した。

(4) 選手の資格認定

主催・公認競技会および国際競技会参加のための騎乗者の資格認定・登録を行った(A 級 40 名、B 級 392 名、C 級 86 名)。

都道府県等が開催する騎乗者資格認定のための審査会(B級27回、C級28回)を規程に基づいて公認した。

(5) 競技会の公認

JEF公認競技会のカテゴリー制・馬のグレード制を円滑に運営し、活性化に努めた(障害101、馬場67、総合6、エンデュランス18:合計192)。

4. 選手の強化

(1) 東京2020大会に向けた馬術競技強化対策事業(JRA特別振興資金事業)

- ① 強化体制の整備として、ドイツ(障害・馬場)およびフランス(総合)にJEF海外トレーニング拠点を計3か所設置した。また、ジェネラルマネージャー、シニアマネージャー等の海外コーチングチームを設置した。
- ② 海外競技活動支援として、9名(障害6・馬場1・総合2)の選手に活動補助費を交付した。
- ③ 優良競技馬による競技活動支援を目的に、6頭(障害4・総合2)を購入した。
- ④ 総合馬術ナショナルチームの競争性を高め選手層を厚くすることを目的に、3名を育成選手として選抜し、JEF海外トレーニング拠点に配置した。また、育成用訓練馬3頭を購入した。また、将来の馬場馬術ナショナルチーム候補選手を育成するため、若手選手2名を選抜し、JEF海外トレーニング拠点に配置した。なお、障害馬術の育成選手は選抜の結果、該当無しとなった。

(2) 選手強化対策

- ① 2018年に開催されるアジア競技大会馬術競技および世界馬術選手権大会に関する選手ミーティングを、国内2回(障害1・馬場1)および海外2回(障害1・馬場1)開催した。
- ② 騎乗・調教技術の向上を図るため、海外からコーチを招聘して強化訓練を実施した(障害1、馬場1、総合3)。
- ③ 優秀な成績を挙げた選手をナショナルチームメンバーに認定した(障害11人馬、プログレス14人、プログレスジュニア17人・馬場5人馬、プログレス28人、プログレスジュニア25人・総合6人、プログレス11人、プログレスジュニア13人)。

(3) ジュニア育成

- ① 国際レベルの選手を育成するため、ヤング・ジュニア層の発掘および強化のため研修会を開催(8回)するとともに、海外の競技会・強化訓練等に若手選手等を派遣した(障害4回、馬場3回、総合5回)。
- ② ジュニアアスリート担当のJOC専任コーチングディレクターを2名(馬場1、総合1)設置し、将来を担う若手の育成を図った。

(4) ナショナルトレーニングセンター(NTC)の活用

- ① 文部科学省の進めるナショナルトレーニングセンター中核拠点施設整備の馬術競技強化拠点として御殿場市馬術・スポーツセンターを活用した(27回、内 JEF8回)。
- ② 医科学サポートに関わる実験データ収集として、手綱一ハミ間における張力測定および映像撮影を実施した。

5. 競技会の開催

(1) 競技会の開催

全日本障害馬術大会(パートI、パートII、ジュニア)、全日本馬場馬術大会(パートI、パートII、ジュニア)、全日本総合馬術大会(パートI、ヤング、ジュニア)、全日本エンデュランス馬術大会を主催した。また、障害・馬場の全日本ジュニアおよび全日本ヤング総合馬術大会はJOCジュニアオリンピックカップ大会として主催した。

(2) 競技会の共催

- ① 第72回国民体育大会馬術競技(愛媛県)を文部科学省他の団体とともに、三木ホースランドパークにて共催した。
- ② 全日本学生馬術大会2017および第89回全日本学生馬術選手権大会・第53回全日本学生馬術女子選手権大会について、全日本学生馬術連盟と共に共催した。また、第2回全日本高校生自馬選手権大会について、全日本高等学校馬術連盟と共に共催した。

(3) FEI公認競技会

- ① JEF主催により、FEI公認馬術大会を6回(チルドレン障害1、馬場1、総合4)開催した。
- ② 日本国内で会員団体が主催するFEI公認馬術大会15大会(障害7、馬場1、総合3、エンデュランス4)の開催を支援した。

(4) ドーピングの防止

- ① 打ち合わせ会等での関係者に対する指導を通じて、馬のドーピング防止に努めた。
- ② 主催競技会(15頭)およびFEI公認大会(23頭)において馬ドーピング検査を38頭に実施し、パラ馬術競技において1頭陽性だった。
- ③ 日本アンチ・ドーピング機構(JADA)と協力して、競技者のドーピング検査を18名に実施し、全件陰性だった。

6. 国際競技会への派遣・支援

- (1) 国際競技会等へ選手・役員を派遣(障害4、馬場1、総合8)し、競技力向上および海外情報収集に努め、併せて国際交流・親善を深めた。
- (2) 平成28年度はワールドカップ日本リーグ優勝および2位の人馬がCSI-W Finalへ参加しなかったため、輸送支援は実施しなかった。
- (3) 世界各国におけるFEI公認馬術大会に参加する日本選手(障害31名延1,160頭、馬場9名延51頭、総合11名延98頭、エンデュランス2名

延 7 頭) を支援した。

7. 東京 2020 大会の準備

- ① 馬事公苑および海の森クロスカントリー会場に係る打ち合わせおよび視察を、FEI、東京 2020 大会組織委員会、東京都、JRA 等と 9 回行った。
- ② 農林水産省と検疫に関する打ち合わせを行った。
- ③ 医療体制に関する打ち合わせを、東京 2020 大会組織委員会と行った。
- ④ FEI 競技会役員の養成のため、FEI 障害スチュワード講習会を開催した。

(資料4) 会員と乗馬の登録 (2 関連)

(1) 会員登録数

区分	H29.3.31 (A)	入会	退会	H30.3.31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
① 正会員	55	0	0	55	0	100.00
イ. 都道府県馬術連盟	47	0	0	47	0	100.00
ロ. 組成団体	4	0	0	4	0	100.00
ハ. 学識経験者	4	0	0	4	0	100.00
② 登録会員	6,959	532	584	6,907	△ 52	99.25
イ. 個人	6,312	501	554	6,259	△ 53	99.16
ロ. 県馬連に所属する団体	381	19	15	385	4	101.05
ハ. 組成団体に所属する団体	266	12	15	263	△ 3	98.87
全日本学生馬術連盟	80	0	0	80	0	100.00
全日本高等学校馬術連盟	90	7	12	85	△ 5	94.44
日本乗馬少年団連盟	65	1	3	63	△ 2	96.92
日本社会人団体馬術連盟	31	4	0	35	4	112.90
③ 賛助会員	1	1	1	1	0	100.00

(2) 乗馬登録数

区分	H29.3.31 (A)	登録	抹消	H30.3.31 (B)	差引増減 (△減)	対前年比 (B/A)
乗馬登録数	3,874	556	542	3,888	14	100.36

(3) FEI登録数

区分	選手	馬匹	トレーナー
障害馬術	89	123	
馬場馬術	47	68	
総合馬術	31	53	
エンデュランス	15	18	1
軽乗	0	0	
パラ馬術	24	34	
レイニング	2	0	
合計	208	296	1

(4) 乗馬登録数

平成29年度 FEIパスポート（リコグニションカードを含む）交付・更新・変更数

新規交付	38
更新	32
変更	31
再発行	4

(うちマイクロチップ埋込み 10件)